

2011年(平成23年)9月14日(水)・15日(木)・16日(金)・17日(土)

## 応用生態工学会 第15回金沢大会

<第15回総会・第15回研究発表会>

(同時開催): 公開シンポジウム

『エコリジョンを考える ～生物多様性と地域の歴史と伝統に基づく流域管理～』

### ご案内

応用生態工学会では、来る9月14日、15日、16日、17日に第15回金沢大会を開催します。会員以外の皆様のご参加もお待ちしております。

- ・第15回研究発表会(金沢学院大学).....9月15日(木)9:30~17:40 ポスター発表、自由集会  
9月16日(金)9:30~17:00 口頭発表、自由集会
- ・公開シンポジウム(石川県立音楽堂邦楽ホール)9月17日(土)13:00~17:00
- ・第15回総会(石川県立音楽堂邦楽ホール).....9月17日(土)10:30~11:30
- ・懇親会(金沢城・五十間長屋).....9月16日(金)19:00~21:00
- ・エクスカージョン.....9月14日(水)9:00~18:00「手取川(上流、中流、下流)」  
13:00~18:00「金沢の里山とまちなか用水」
- ・書籍販売(学会誌・専門書籍).....9月15~16日(木・金)金沢学院大学

#### 【会場】

◎研究発表: 金沢学院大学

住所: 石川県金沢市末町10

電話: 076-229-1181

URL: <http://www.kanazawa-gu.ac.jp/>

交通: 自家用車利用の場合、金沢西インターから約40分、金沢森本インターから約20分。金沢駅より北陸鉄道バスを利用の場合、東口(10番)18系統(香林坊・本多町経由)で乗車し、「金沢学院大学・金沢学院東高校・東部車庫」バス停にて下車。

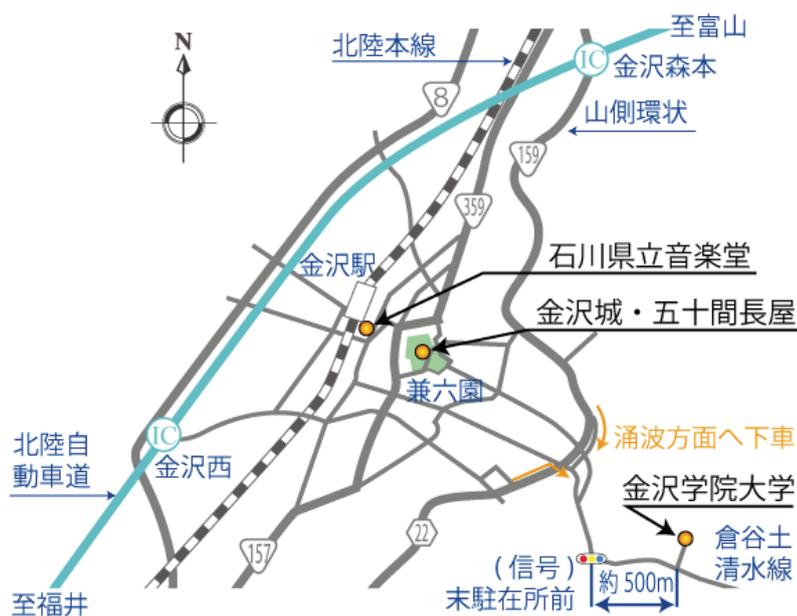
◎総会・公開シンポジウム: 石川県立音楽堂

住所: 石川県金沢市昭和町20-1

電話: 076-232-8111 URL: <http://www.ongakudo.jp/> 交通: 金沢駅東口から徒歩1分。

◎懇親会: 金沢城・五十間長屋

交通: 金沢駅からバスで15分、兼六園下で下車、石川門をくぐり徒歩5分



#### 【参加料】

研究発表会に参加される方(講演者を含む)は、下記の参加料をお支払い下さい。

●研究発表会参加料

正会員・賛助会員: 6,000円, 一般非会員: 10,000円, 学生会員・学生非会員: 3,000円

◎15日・16日昼食弁当代(希望者) 各日900円

●懇親会参加料: 6,000円

- エクスカージョン 1日コース 一般：3,000円 学生：1,500円 (昼食代を含む)  
 半日コース 一般：1,000円 学生：500円

※ 1日・半日コースとも、定員は45名で先着順とします。

注1) 会員は総会(9月17日(土)10時30分～11時30分)に無料で出席できます。総会における議決権は正会員にしかありません。

注2) 公開シンポジウム(9月17日(土)13時00分～17時00分)の参加料は、非会員も含めて無料です。

注3) 研究発表参加料には、当日配布する講演集費用を含みます。

ただし、講演集のみ入手希望の方には、3,000円で販売いたします。

注4) 合計参加料は、参加者名を明記の上、指定口座(参加申込書に記載)にお振込み下さい。

注5) 交通手段及び宿泊関係は、各自でご手配下さい。

注6) 研究発表会は会場の都合により定員300名で締め切ります、早めに申込下さい。

### 【参加申込先】

参加申込みは、学会ホームページ上の『申し込みフォーム』を利用して、8月26日(金)までにお申込みください。(参加費用のお振込期限は9月2日(金)までです。)なお、同様の内容を記載した電子メールによる申込みも可能です。また、講演要旨集のみ希望の方は3,000円(送料込みで3,210円)で販売しております。公開シンポジウムの参加料は無料となっています。

**※(9月15,16日の学内食堂は営業していません、また、周辺には昼食場所がないため、別途900円でお弁当が用意できます。参加申込みと同時に申し込みください。)**

ファックス・同等内容のEメールでも受け付けます。

参加申込用フォーム：[http://ecesj.com/FS-APL/FS-Form/form.cgi?Code=annual\\_con](http://ecesj.com/FS-APL/FS-Form/form.cgi?Code=annual_con)

### 【問い合わせ先】

応用生態工学会 事務局 高橋 眞彦

〒102-0083 東京都千代田区麹町4-7-5 麹町ロイヤルビル405号室

TEL. 03-5216-8401 FAX. 03-5216-8520 E-mail: [kanazawa-15th-meeting@ecesj.com](mailto:kanazawa-15th-meeting@ecesj.com)

### 【全体スケジュール】

- |                |                                       |                   |
|----------------|---------------------------------------|-------------------|
| ■ 9月14日(水) 1日目 |                                       |                   |
| 9:00～18:00     | エクスカージョン1日コース：「手取川(水源の森から河口まで)コース」    |                   |
| 13:00～18:00    | エクスカージョン半日コース：「金沢の里山と、まちなか用水コース」      |                   |
| ■ 9月15日(木) 2日目 | 【第1会場：講堂 第2会場：1F415講義室 第3会場：2F423講義室】 |                   |
| 9:00～          | 開場、受付開始                               |                   |
| 9:20～ 9:30     | 開会式、ポスター発表要領等の説明                      | 【第1会場】            |
| 9:30～17:30     | 自由集会「日韓セミナー:エコシステムアプローチによる河川・流域の自然復元」 | 【第3会場】            |
| 10:00～15:00    | ポスター発表                                | 【1F中央廊下、ホール】      |
| 10:00～10:30    | ポスター発表要旨説明(概要1分発表 奇数番27編)             | 【第1会場】            |
| 13:00～13:30    | ポスター発表要旨説明(概要1分発表 偶数番24編)             | 【第1会場】            |
| 14:40～17:40    | 自由集会「水田・水路生態系における魚類研究の現状と課題」          | 【第2会場】            |
| ■ 9月16日(金) 3日目 | 【第1会場：講堂 第2会場：1F415講義室 第3会場：2F423講義室】 |                   |
| 9:00～          | 開場、受付開始                               |                   |
| 9:20～ 9:30     | 口頭発表、分科会、自由集会の要領等の説明                  | 【第1会場】            |
| 9:30～15:00     | 口頭発表「セッション「1～7」31編                    | 【第1,2会場】          |
| 9:30～14:00     | 口頭発表「国際セッション13編」                      | 【第3会場】            |
| 14:30～17:00    | 自由集会「ヤツメウナギ類の進化・生態そして保全を考える」          | 【第2会場】            |
| 15:00～17:00    | 自由集会「わが国における天然記念物4魚種の応用生態工学的保全の現状」    | 【第3会場】            |
| 19:00～21:00    | 懇親会                                   | 【金沢城・五十間長屋】       |
| ■ 9月17日(土) 4日目 |                                       |                   |
| 10:30～11:30    | 総会                                    | 【会場：石川県立音楽堂邦楽ホール】 |
| 13:00～17:00    | 公開シンポジウム・パネルディスカッション                  | 【会場：石川県立音楽堂邦楽ホール】 |

◆公開シンポジウムは河川整備基金の助成を受けて実施します。

【エクスカージョン】各コースとも定員45名で、先着順といたします。

(1) 日時

9月14日(水) 1日コース 金沢駅発 9:00 → 金沢駅着 18:00  
 半日コース 金沢駅発 13:00 → 金沢駅着 18:00

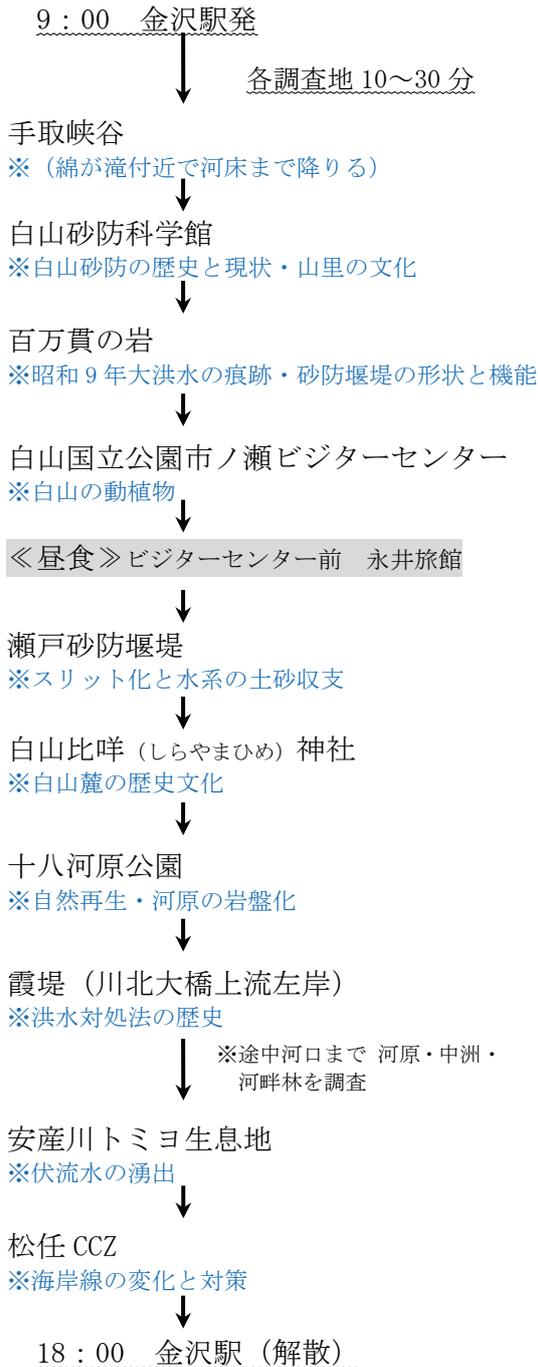
※天候や時間の都合により、見学場所を変更または省略する場合があります。

(2) 行先

1日コース：手取川の上・中・下流域 半日コース：金沢市郊外と旧市街地

(3) コース

【 I 手取川(水源の森から河口まで)コース 】 案内の講師：池田 宏(元 筑波大学)



【 II 金沢の里山とまちなか用水コース 】

13:00 金沢駅発



13:30~14:30

金沢大学 角間の里

※里山に関する教育・研究、地域との連携・交流



15:00~16:00

辰巳ダム、辰巳用水隧道横穴・三段石積

※ダムと文化遺産・歴史用水・三ダム連携・生態系保全



16:30~17:40

鞍月用水、大野庄用水

※今に活きる歴史用水とまちなか景観・生態系保全



18:00 金沢駅(解散)



自然豊かな憩いの場となる用水

辰巳用水遊歩道



大野庄用水

武家屋敷と用水



金沢大学 角間の里

自然にとけこむ  
里山自然学校の拠点



環境に配慮し建設中の辰巳ダム

辰巳ダム

**【研究発表会・一般講演内容(ポスター発表)】**

タイトルの後の「研」は研究報告, 「事」は事例報告, 「他」はその他

<b>ポスター発表 9月15日(木)ー2日目ー 10:00~15:00</b>		<b>[会場: 1F 中央廊下・ホール]</b>
10:00~10:30	ポスター発表要旨説明 (概要1分発表: セッション末尾奇数番 27 編) . . . . .	<b>講 堂</b>
13:00~13:30	ポスター発表要旨説明 (概要1分発表: セッション末尾偶数番 24 編) . . . . .	<b>講 堂</b>
<b>セッション1 ハビタット評価</b>		
1-1. 「高所作業車を用いた河畔林樹木の落葉散布範囲の測定」: 「研」 阿部 俊夫* ((独) 森林総合研究所北海道支所), 倉本 恵生(同), 山野井 克己(同)		
1-2. 「自律航行ボートを用いた宮島沼の水質空間分布調査」: 「事」 横山 諒* (北海道大学農学部農業工学科), 山田 浩之(北海道大学大学院農学研究院), 海津 裕(同), 野口 伸(同)		
1-3. 「多摩川における糸状緑藻カワシオグサの分布に人工構造物が与える影響」: 「研」 岡田 久子* (明治大学農学部), 倉本 宣(同), 知花 武佳(東京大学工学部)		
1-4. 「河川改修の影響を受けたサロベツ湿原ドームドボグからの地下水溶存態炭素の流出」: 「事」 平岡 亮太郎* (北海道大学大学院農学院), 山田 浩之(北海道大学大学院農学研究院), 平野 高司(同)		
1-5. 「サイドスキャンソナー搭載魚群探知機を用いた水生植物群落の分類と現存量推定」: 「事」 山田 浩之* (北海道大学大学院農学研究院), 藤島 洸(北海道大学農学部農業工学科), 若菜 勇(阿寒湖畔エコミュージアムセンターマリモ研究室)		
1-6. 「GISを用いた農業用水路におけるイシガイ科二枚貝の生息条件の分析」: 「研」 玉置 弘幸* (北海道大学大学院環境科学院), 根岸 淳二郎(北海道大学大学院環境科学院 /(独) 土木研究所自然共生研究センター), 永山 滋也((独) 土木研究所自然共生研究セン ター), 萱場 祐一(同), 川瀬 基弘(愛知みずほ大学人間科学部)		
1-7. 「カワウによる捕食被害軽減のための粗朶沈床を利用した魚の隠れ家の機能評価 (予報)」: 「研」 藤田 達也* (長岡技術科学大学生物), 樋口 正仁(新潟内水試), 伊藤 陽人(佐渡地域振興局), 野上 泰宏(新潟内水試), 前 雄介(同), 山本 麻希(長岡技術科学大学生物)		
1-8. 「湖沼沈水植物が持つ物理的特性について ~人工藻による波浪減衰実験と湖岸再生への 活用~」: 「研」 大石 哲也* ((独) 土木研究所水環境研究グループ), 萱場 祐一(同), 三輪 準二(同)		
1-9. 「微量元素を用いた三春ダム生息魚類の生息地判別」: 「研」 石崎 陽子* (弘前大学大学院農学生命科学研究科), 東 信行(同)		
<b>セッション2 水路, 魚道</b>		
2-1. 「サクラマスの生活史を通じた魚道の整備効果の検討」: 「事」 渡辺 恵三* ((株) 北海道技術コンサルタント), 坪谷 太郎(同), 森 由行(同)		
2-2. 「3次元動画計測法を用いた魚道潜孔におけるトミヨの遡上行動の解析」: 「研」 山下 慶* (石川県立大学大学院生物資源環境学研究科), 一恩 英二(石川県立大学生物資源 環境学部), 北村 邦彦(同)		
2-3. 「田んぼに魚はいつのぼるのか? ~水田と水路の落差の少ないほ場での魚類の 行動~」: 「事」 北村 淳一* (三重県立博物館/NPO 法人 流域環境保全ネットワーク), 皆川 明子(滋賀県立 大学), 向井 貴彦(岐阜大学), 三浦 一輝(筑波大学), 森 誠一(NPO 法人 流域環境保全ネット ワーク/岐阜経済大学)		
2-4. 「潜孔付き全面越流型魚道におけるトミヨの遡上実態」: 「研」 前田 恭平* (石川県立大学大学院生物資源環境学研究科), 一恩 英二(石川県立大学生物資源 環境学部), 北村 邦彦(同)		

ポスター発表 9月15日(木) - 2日目 - 10:00~15:00

[会場: 1F 中央廊下・ホール]

セッション3 河川環境

- 3-1. 「九州における汽水性希少ハゼ類の分布パターンと流域特性」: 「研」  
乾 隆帝\*(徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部), 竹村 紫苑(徳島大学大学院先端技術科学教育部), 大橋 順(同), 鬼倉 徳雄(九州大学農学研究院), 鎌田 磨人(徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部)
- 3-2. 「集水域特性が河川生物の群集構造および相互作用に及ぼす影響」: 「研」  
潮見 礼也\*(愛媛大学大学院理工学研究科), 三宅 洋(同), 上田 竜士(同), 井上 幹生(同)
- 3-3. 「手取川における河床変動と河畔林組成の変化」: 「事」  
古高 太規\*(石川県立大学大学院), 柳井 清治(石川県立大学)
- 3-4. 「河川蛇行部に形成される淵の環境構造と魚類群集」: 「研」  
河口 拓紀\*(愛媛大学理工学研究科), 遠藤 広光(高知大学理学部), 山下 慎吾(魚と山の空間生態研究所)
- 3-5. 「洪水攪乱が止水性二枚貝の生息分布に与える影響に関する研究」: 「研」  
稲熊 祐介\*(九州大学大学院工学府), 林 博徳(九州大学大学院工学研究院), 小崎 拳(九州大学大学院工学府), 劉 佳(同), 島谷 幸宏(九州大学大学院工学研究院)
- 3-6. 「冠雪害によって河川に供給された倒流木の特徴およびアマゴ生息環境に対するその効果」: 「研」  
末國 仙理\*(愛媛大学大学院理工学研究科), 菊地 修吾(同), 井上 幹生(同)
- 3-7. 「木津川の砂州環境条件によるたまりの生息場評価に関する研究」: 「研」  
寺田 匡徳\*(京都大学防災研究所), 竹門 康弘(同), 池田 欣子(アジア航測株式会社), 西井 一浩(同), 角 哲也(京都大学防災研究所)

セッション4 生態系, 生物群集

- 4-1. 「愛媛県加茂川・中山川におけるヨシノボリ類の遺伝的多様性」: 「研」  
高木 基裕\*(愛媛大学南予水産研究センター), 関家 一平(愛媛大学農学部), 柴川 涼平(同), 清水 孝昭(愛媛県水産研究センター), 川西 亮太(愛媛大学理工学研究科), 井上 幹生(同)
- 4-2. 「貯水池管理とカワヒバリガイの鉛直分布」: 「研」  
中野 大助\*((財)電力中央研究所), 小林 卓也(同), 坂口 勇(同)
- 4-3. 「瀬戸内海砂浜におけるコアマモ *Zostera japonica* の分布とマクロベントス群集構造の解析」: 「研」  
中川 詠理\*(愛媛大学沿岸環境科学研究センター), 大森 浩二(同)
- 4-4. 「山地溪流における森林植生の生態学的機能—上流からの波及効果の検討—」: 「研」  
竹林 佑記\*(愛媛大学大学院理工学研究科), 菊地 修吾(同), 井上 幹生(同)
- 4-5. 「降海型イトウの回遊履歴と胃内容物組成」: 「研」  
鈴木 享子\*(東京大学大気海洋研究所), 吉富 友恭(東京学芸大学環境教育研究センター), 河口 洋一(徳島大学工学部), 江戸 謙顕(文化庁天然記念物課), 市村 政樹(標津サーモン科学館), 藤本 信治(オホーツク活魚), 大竹 二雄(東京大学大気海洋研究所)
- 4-6. 「移植した重要な種フクジュソウの個体群動態と将来予測」: 「研」  
加藤 絵里子\*(応用地質(株)), 浅見 和弘(同), 沖津 二郎(同), 松田 裕之(横浜国立大学), 中沢 重一(国土交通省三春ダム管理所)
- 4-7. 「木曾川におけるイタセンパラおよびタイリクバラタナゴの食物網解析」: 「研」  
佐川 志朗\*((独)土木研究所水環境研究グループ自然共生研究センター), 根岸 淳二郎(北海道大学地球環境科学研究科), 永山 滋也((独)土木研究所水環境研究グループ自然共生研究センター), 久米 学(岐阜経済大学), 北村 淳一(三重県生活・文化部新博物館整備推進室), 池谷 幸樹(岐阜県世界淡水魚園水族館アクア・トトぎふ), 萱場 祐一((独)土木研究所水環境研究グループ自然共生研究センター)
- 4-8. 「安定同位体比解析を用いたベトナム Red River 河口域における復元されたマングローブ林の生態学的機能の解明」: 「研」  
濱岡 秀樹\*(愛媛大学沿岸環境科学研究センター), Nguyen Tai Tue(同), 曾我部 篤(広島大学生物生産学部), 大森 浩二(愛媛大学沿岸環境科学研究センター)
- 4-9. 「河川の水文・水質および流域の特性に着目した底生動物群集の成立要因に関する考察」: 「研」  
田代 喬\*(名古屋大学大学院環境学研究科), 小川 隆文(名古屋大学大学院工学研究科), 辻本 哲郎(同)
- 4-10. 「十三湖におけるヤマトシジミに対する魚類の捕食圧について」: 「研」  
出村 国光\*(弘前大学大学院), 茂古沼 祐介(同), 東 信行(同)

<p>4-11. 「利根川下流域における特定外来生物（カワヒバリガイ）の生息状況と捕食状況について」 ：「事」 萩野 裕朗*（復建調査設計株式会社）、森田 敏弘（同）、新岡 優一（同）、福元 博行（国土交通省関東地方整備局利根川下流河川事務所）、小栗 幸雄（同、現下館河川事務所）</p> <p>4-12. 「再生氾濫原における水質の季節変動とその規定要因に関する事例研究」：「事」 小崎 拳*（九州大学大学院工学府都市環境システム工学専攻）、林 博徳（九州大学大学院工学府環境都市部門）、辻本 陽琢（国土交通省港湾局技術企画課）、島谷 幸宏（九州大学大学院工学府環境都市部門）</p> <p>4-13. 「河岸における湿潤度及び温度変動の違いが生物の多様性に与える影響」：「研」 尾崎 正樹*（独）土木研究所水環境研究グループ自然共生研究センター）、相川 隆生（国土交通省中部地方整備局中部技術事務所（現木曾川下流河川事務所））、萱場 祐一（独）土木研究所水環境研究グループ自然共生研究センター）、佐川 志朗（同）</p>
--

**ポスター発表 9月15日(木) - 2日目 - 10:00~15:00 [会場：1F 中央廊下・ホール]**

<p><b>セッション5 環境改善</b></p> <p>5-1. 「置き土実験及び覆砂実験を活用した排砂による影響検討」：「事」 渡邊 守*（国土交通省中部地方整備局企画部）、高柳 淳二*（財）ダム水源地環境整備センター）、清原 正道（同）、富田 邦裕（株）建設環境研究所）、加藤 康充（同）</p> <p>5-2. 「トミヨの生息環境に配慮した水路改修工事の効果」：「事」 山崎 裕昌*（石川県立大学大学院生物資源環境学研究所）、一恩 英二（石川県立大学生物資源環境学部）、上田 哲行（同）、北村 邦彦（同）</p> <p>5-3. 「圃場整備水田域における生き物を育む農法の質の向上にむけた取り組み」：「研」 竹川 有哉*（徳島大学大学院先端技術科学教育部）、河口 洋一（徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部）、青山 直寛（徳島大学大学院先端技術科学教育部）、中津 充裕（徳島大学工学部）</p> <p>5-4. 「砂投入による付着藻類、底生動物の短期的な応答及び景観向上効果に関する実験的検討」：「研」 皆川 朋子*（福岡大学工学部社会デザイン工学科）、萱場 祐一（独）土木研究所自然共生研究センター）</p> <p>5-5. 「アユ産卵床の造成後における物理環境の持続性とその効果について」：「事」 平野 博範*（株）国土開発センター）、大角 一浩（国土交通省北陸地方整備局金沢河川国道事務所）</p> <p>5-6. 「固定床河川における流砂の伝播特性と水制を利用した生態系機能の回復技術」：「研」 久加 朋子*（京都大学工学研究科社会基盤工学専攻、水辺のフィールドミュージアム研究会）、竹林 洋史（京都大学防災研究所）、藤田 正治（同）、大澤 剛士（独）農業環境技術研究所、水辺のフィールドミュージアム研究会）、清水 洋平（株式会社浅沼組、水辺のフィールドミュージアム研究会）、石田 裕子（摂南大学工学部、水辺のフィールドミュージアム研究会）、佐々木 宏展（摂津第三中学校、水辺のフィールドミュージアム研究会）、三橋 弘宗（人と自然の博物館、水辺のフィールドミュージアム研究会）</p>
---

<p><b>セッション6 移入種対策</b></p> <p>6-1. 「河川の流量減少は外来性底生動物の侵入を促進するか？」：「研」 山根 直也*（愛媛大学大学院理工学研究科）、酒井 亨（同）、三宅 洋（同）</p> <p>6-2. 「夏期制限水位方式のダム湖における電気ショック船を用いたオオクチバスの試験的な捕獲について」：「事」 沖津 二郎*（応用地質（株））、鎌田 健太郎（同）、大塚 勝章（元国土交通省東北地方整備局北上川ダム統合管理事務所）、渡辺 聖治（同）</p> <p>6-3. 「ダム湖における国内外来魚ハスの出現予測 —公開情報による出現予測と実調査データでの補正—」：「研」 井原 高志*（九州大学大学院）、乾 隆帝（徳島大学大学院）、大畑 剛史（九州大学大学院）、鬼倉 徳雄（同）</p> <p>6-4. 「立山カルデラにおける外来植物の侵入・分布拡大防止に向けた取り組みについて」：「事」 柴田 閑*（株）建設技術研究所）、鈴木 荘司（同）、千葉 将敏（同）、吉村 明（国土交通省北陸地方整備局立山砂防事務所）、工藤 裕之（同）、風間 美樹（同）</p> <p>6-5. 「ダム湖の水位低下を利用した定置網による外来魚捕獲試験」：「研」 鎌田 健太郎*（応用地質（株））、熊澤 一正（財）ダム水源地環境整備センター）、西田 守一（応用地質（株））、大杉 奉功（財）ダム水源地環境整備センター）、岩見 洋一（同）、浅見 和弘（応用地質（株））、沖津 二郎（同）、中井 克樹（滋賀県立琵琶湖博物館）、中沢 重一（国土交通省 東北地方整備局 三春ダム管理所）</p>
---

ポスター発表 9月15日(木) - 2日目 - 10:00~15:00 [会場: 1F 中央廊下・ホール]

セッション7 事業, 運動, 教育

7-1. 「学校の授業を活用した河川魚類相のモニタリング ~博物館・学校連携による学区内河川の魚類相調査~」: 「研」

金尾 滋史\* (滋賀県琵琶湖博物館)

7-2. 「流域管理による貴重種の保護対策—ヤリタナゴとマツカサガイ—」: 「事」

山田 辰美\* (富士常葉大学), 関川 文俊 (富士常葉大学附属環境防災研究所), 法月 直也 (同)

7-3. 「自然再生事業地における環境教育活動の展開と課題」: 「研」

新國 宏樹\* (東京学芸大学), 藤井 佑香 (同), 吉富 友恭 (同)

7-4. 「住民主体の河川環境保全・再生活動の変遷と地域間比較に関する考察」: 「研」

神谷 大介\* (琉球大学), 赤松 良久 (山口大学大学院), 花井 真悟 (NIPPO)

7-5. 「手取川自然再生事業 ~礫河原の復元に向けた取り組み~」: 「事」

前 正人\* ((株)国土開発センター), 大角 一浩 (国土交通省北陸地方整備局金沢河川国道事務所), 谷 茂行 (同), 橘 翼 (同)

7-6. 「ダム事業に伴うカジカ中卵型 *Cottus* sp. の効果的な保全措置の検討」: 「研」

宮島 泰志\* ((株)建設技術研究所), 宮崎 太 (同), 安形 仁宏 (同), 中山 雅文 (国土交通省九州地方整備局長崎河川国道事務所開発調査課), 村岡 敬子 ((独)土木研究所水環境研究グループ河川生態チーム), 山下 慎吾 (同)

7-7. 「空石積みで造られた3面張り水路~ほ場整備事業と保存のはざままで~」: 「事」

田代 優秋\* (徳島大学)

**【研究発表会・一般講演内容(口頭発表)】**

※タイトルの後の「研」は研究報告, 「事」は事例報告, 「他」はその他

口頭発表 9月16日(金)ー3日目ー 09:30~15:00		[第1会場:講堂]
<b>セッション1 付着藻類, 水生昆虫</b>		
09:30	1-1. 「フラッシュ放流により剥離する付着藻類量の評価モデルの確立」:「研」 中土井 佑輔*(広島大学大学院工学研究科), 河原 能久(同), 椿 涼太(同)	
09:45	1-2. 「掃流砂が一次生産速度に及ぼす効果ー被覆効果と磨耗効果に着目した砂供給実験ー」: 「研」 萱場 祐一*((独)土木研究所自然共生研究センター), 小野田 幸生(同)	
10:00	1-3. 「矢作川中流の瀬における支流の流入による底生動物の変化」:「研」 内田 臣一*(愛知工業大学 工学部 都市環境学科)	
10:15	1-4. 「矢作川においてダム下流の石はなぜ黒い?」:「研」 内田 朝子*(豊田市矢作川研究所), 横山 亜希子(愛知工業大学)	
10:30	1-5. 「新型治山ダム設置後4年間での水生昆虫群集の構造変化」:「研」 渡辺 のぞみ*(北海道大学環境科学院), 布川 雅典(専修大学北海道), 岡田 真枝(有限会社社名淵みどり牧場), 須戸 孝彰(株式会社70-リ カチャーリスト タカハ), 丸谷 知巳(北海道大学農学部農学院)	
<b>セッション2 魚類生息環境改善</b>		
10:45	2-1. 「越冬期の微生物環境がサクラマス幼魚の生残率に与える影響」:「研」 ト部 浩一*(道総研 さけます・内水面水産試験場), 虎尾 充(同)	
11:00	2-2. 「渓流域におけるサクラマス幼魚の越冬に適した微生物環境の分布特性」:「研」 ト部 浩一*(道総研 さけます・内水面水産試験場), 宮腰 靖之(同), 眞野 修一(同), 中島 美由紀(同), 川村 洋司(同)	
11:15	2-3. 「木曾三川における魚類群集の特徴 ~流域および区間スケールにおける人為的影響~」: 「研」 森 照貴*(土木研究所・自然共生研究センター), 上野 公彦(岐阜県河川課), 佐川 志朗(土木研究所・自然共生研究センター), 萱場 祐一(同)	
11:30	2-4. 「アユ漁場に適した水理条件に関して既往資料調査による指標値設定の試み」: 「研」 若尾 拓志*(中電技術コンサルタント(株)), 峰松 勇二(同), 山原 康嗣(同)	
11:45	2-5. 「川の働きを許容する空間を確保した川づくりー北海道真駒内川の事例ー」:「事」 渡辺 恵三*((株)北海道技術コンサルタント), 劔持 浩高(北海道建設部土木局河川課), 福田 孝宗(北海道空知総合振興局札幌建設管理部事業課)	
12:00~13:00	ー休憩ー	
<b>セッション3 生息環境改善・評価</b>		
13:00	3-1. 「愛媛県の瀬戸内沿岸河川における両側回遊性カジカの生息適地の評価」:「研」 田頭 亮臣*(愛媛大学大学院理工学研究科), 井上 幹生(同)	
13:15	3-2. 「環境類型区分と指標生物をベースとした河川の健全性評価」:「研」 丹羽 英之*(兵庫県立人と自然の博物館), 三橋 弘宗(兵庫県立人と自然の博物館, 兵庫県立大学)	
13:30	3-3. 「九州北部におけるモツゴの生息場選好性モデルの検証と空間汎化能力の評価」: 「研」 福田 信二*(九州大学熱帯農学研究センター), 鬼倉 徳雄(九州大学大学院農学研究院), 中島 淳(福岡県保健環境研究所), 向井 貴彦(岐阜大学地域科学部)	
13:45	3-4. 「水枯れしない農業用水路における魚類の生息環境と利用実態」:「研」 永山 滋也*(自然共生研究センター), 根岸 淳二郎(北大院地球環境), 久米 学(岐阜経済大学), 佐川 志朗(自然共生研究センター), 塚原 幸治(岐阜・美濃生態系研究会), 三輪 芳明(同), 萱場 祐一(自然共生研究センター)	

口頭発表 9月16日(金) - 3日目 - 09:30~15:00

[第1会場: 講堂]

セッション4 魚道

- 14:00 4-1. 「農業用排水路内における魚類の生息状況と移動分散能力 - 水田魚道の効果的な配置間隔の指標化に向けて -」: 「研」  
 平田 一樹(同), 阿辺 一郎\*(農林水産省農村振興局農村環境課), 森 淳((独)農業・食品産業技術総合研究機構 農村工学研究所), 鈴木 正貴(岩手県立大学), 竹村 武士((独)農業・食品産業技術総合研究機構 農村工学研究所), 田代 優秋(徳島大学大学院), 皆川 明子(滋賀県立大学), 守山 拓弥((社)地域環境資源センター), 渡部 恵司((独)農業・食品産業技術総合研究機構 農村工学研究所)
- 14:15 4-2. 「北海道須築川の砂防ダム上下流に分布するサクラマス等魚類」: 「事」  
 楠田 聡\*(地方独立行政法人北海道立総合研究機構 さけます・内水面水産試験場道南支場), 大森 始(同), 大久保 進一(同)
- 14:30 4-3. 「遡上試験によるサイフォン型パイプ魚道の機能向上についての検討」: 「研」  
 赤司 信義\*(西日本工業大学), 石川 誠(同), 太田 有生夫(同), 福田 直三(復建調査設計(株)), 若宮 慎二(同), 魚住 忠可(福岡県京築県土整備事務所), 村田 真斎(同)
- 14:45 4-4. 「北海道日高地方におけるサケの自然産卵状況と産卵環境」: 「研」  
 宮腰 靖之\*(道総研 さけます・内水面水産試験場), 卜部 浩一(同), 三島 啓雄(北大院農), 高田 雅之(道総研 環境科学研究センター)

<b>口頭発表 9月16日(金) - 3日目 - 09:30~13:45</b>		[第2会場:1F 415 講義室]
<b>セッション5 河道内植生, 物質循環</b>		
09:30	5-1. 「樹木群の生長を考慮した樹木管理の実現に向けた研究」:「研」 兵藤 誠*(いであ(株)), 中原 良(同), 堀江 克也(同), 小林 雄介(同)	
09:45	5-2. 「スリット型砂防堰堤付近の河床における物理環境と植物生育適性に関する研究」: 「研」 澤 康雄*((株)国土開発センター), 三納 圭之輔(同), 藤田 重敬(国土交通省北陸地方整備局 金沢河川国道事務所), 玉井 信行(金沢学院大学大学院)	
10:00	5-3. 「流域及び水辺の植生景観と河川水質との間における関係性の解明」:「研」 三浦 佳林*(横浜国際大学), 大野 啓一(同), 渡邊 浩一郎(帝京科学大学)	
10:15	5-4. 「水田除草剤に対する植物種毎の生態毒性影響の違い」:「研」 小森 瑞樹*(木更津高専・専攻科), 湯谷 賢太郎(木更津高専・環境都市)	
<b>セッション6 モニタリング・評価</b>		
10:30	6-1. 「マクロベントスによる人工干潟の現状評価」:「研」 山本 龍兵*(阿南高専・構造設計工学専攻), 東和之(阿南高専・技術部), 大田 直友(阿南高専・建設システム工学科)	
10:45	6-2. 「宍道湖・中海での野外飼育実験におけるヤマトシジミの成長の違いと餌環境 について」:「研」 森崎 夏輝*(北海道大学大学院環境科学院), 瀬戸 浩二(島根大学汽水域研究センター), 外山 浩太郎(神戸大学大学院人間発達環境研究科), 森高 秀信(島根大学総合理工学部)	
11:00	6-3. 「水質調査フィルターを利用した流下珪藻による簡易な河川生態環境評価法」: 「研」 芝崎 美世子*(大阪市立大学), 大塚 泰介(琵琶湖博物館), 三田村 宗樹(大阪市立大学)	
11:15	6-4. 「大田原市指定天然記念物「イトヨ生息河川おかんじち川」におけるイトヨ那須 域個体群の再導入に向けた取り組み」:「事」 吉田 豊*(栃木県水産試験場), 相沢 康子(大田原市役所), 木村 瑞穂(同), 荒井 一夫(金田 北部環境保全会), 豊田 博良(大田原市市野沢自治会), 森 誠一(岐阜経済大学)	
11:30	6-5. 「ダム湖の湛水とザリガニの生息環境についてーラジオテレメトリーシステムを用 いた越冬前の行動特性の検討ー」:「研」 飯村 幸代*((社)北海道栽培漁業振興公社), 中尾 勝哉(同), 川井 唯史(北海道立総合研究機構 稚内水産試験場), 長原 寛(国土交通省北海道開発局留萌開発建設部), 井出 康郎(国土交通省北海道局), 上田 宏(北海道大学北方生物圏フィールド科学センター)	
11:45	6-6. 「三春ダム前貯水池の水位低下操作を用いたブルーギル繁殖コロニーの防除手法」: 「研」 大杉 奉功*((財)ダム水源地環境整備センター), 岩見 洋一(同), 中井 克樹(滋賀県立琵琶湖 博物館), 沖津 二郎(応用地質(株)), 齋藤 大(同), 中沢 重一(国土交通省 三春ダム管理所)	
12:00~13:00 -休憩-		
<b>セッション7 陸上等における生息環境改善</b>		
13:00	7-1. 「山間地・里地におけるホンドキツネの環境選好性と工事改変による生息域の変化」: 「研」 藤井 暁彦*((財)九州環境管理協会), 荒井 秋晴(九州歯科大学総合教育学分野), 首藤 勝登(福岡県伊良原ダム建設事務所)	
13:15	7-2. 「代替横坑における環境の再現性とコウモリ類の利用」:「事」 山本 史子*((財)九州環境管理協会), 藤井 暁彦(同), 荒井 秋晴(九州歯科大学総合教育学分野), 首藤 勝登(福岡県伊良原ダム建設事務所)	
13:30	7-3. 「2010年奄美大島豪雨がマングローブ・サンゴ生態系に与えた影響」:「事」 赤松 良久*(山口大学大学院理工学研究科), 宮 良工((財)沖縄県環境科学センター), 神谷 大介(琉球大学工学部), 竹林 洋史(京都大学防災研究所), 二瓶 泰雄(東京理科大学 理工学部), 興 克樹((有)ティダ企画), 竹村 紫苑(徳島大学大学院先端技術科学教育部)	

口頭発表 9月16日(金) - 3日目 - 09:30~14:00

[第3会場: 2F 423 講義室]

国際セッション 1

- 09:30 国-1. 「Effect of spring water on growth of *Sparganium japonicum*」:「研」  
Kazuya Takahashi\*(Saitama University), Takashi ASAEDA(同)
- 09:45 国-2. 「Simple rating scale of luxuriance of plant community for volunteer monitoring」:「研」  
Tetsuo Uchida\*(Department of Environmental Science and Technology, Saitama University), Goroumaru Tujino(Department of Civil Engineering, Chuo University), Ryo Nomura(Academy of Natural environment, Nonprofit Organization), Takashi Asaeda(Department of Environmental Science and Technology, Saitama University)
- 10:00 国-3. 「Nitrogen budget of the floodplain of Tama River」:「研」  
Kosuke Ota\*(Saitama University), Takashi Asaeda(同)
- 10:15 国-4. 「Influencing factors on the vegetation coverage of Japanese river channels.」:「研」  
Kyohei Ohyama\*(Saitama University), Takashi Asaeda(同)
- 10:30 国-5. 「Effect of medium class flood disturbance on diversity of vegetation area at gravel bars in middle stream of rivers」:「研」  
De Silva Petthayaddehi Kasun Chirantha\*(Department of Civil & Environmental Saitama University), Norio Tanaka(同), Junji Yagisawa(同)
- 10:45 国-6. 「Reproduction characteristics of *Robinia pseudoacacia* on the midstream sand bar of the Arakawa River using RAPD analysis」:「研」  
Keisuke Hoshi\*(Department of Science and Engineering, Saitama University), Takashi Asaeda(同), Maki Kawai(同), Ichiro Kasajima(Institute of Environmental and Science Technology, Saitama University)
- 11:00 国-7. 「Nitrogen cycle due to vegetation at the side of the reservoir with water level fluctuation」:「研」  
Yuta NAKAMURA\*(Saitama University), Takashi ASAEDA(同), Kazuhiro AZAMI(Oyo Corporation)
- 11:15 国-8. 「Relationship Between Sediment Property and Dissolved Oxygen Consumption Rate in Different Aquatic Habitats of an Intact Floodplain」:「研」  
Jun ITO\*(Tokyo Institute of Technology), Chihiro YOSHIMURA(同), Manabu FUJII(同), Takaaki MASUYAMA(同)
- 11:30 国-9. 「Short duration exposure of *Lemna minor* (Duckweed) to 2GHz electromagnetic waves and communication electromagnetic waves free environment」:「研」  
Senavirathna, Mudalige Don Hiranya Jayasanka\*(Department of Environmental Science & Technology, Saitama University), Takashi Asaeda(Institute for Environmental Science & Technology, Saitama University)

12:00~13:00 -休憩-

口頭発表 9月16日(金) - 3日目 - 09:30~14:00

[第3会場: 2F 423 講義室]

国際セッション2

- 13:00 国-10. 「Addressing Environmental Aspects of Integrated Flood Management」  
:「他」  
Makoto Hyodo\*(IDEA Consultants, Inc.), Avinash Tyagi(World Meteorological Organization), Wolfgang Grabs(同), Tomoyuki Okada(同), Giacomo Teruggi(同)
- 13:15 国-11. 「Effects of sea breeze on phosphorus dynamics in a shallow eutrophic lake」  
:「研」  
Ryuichiro Shinohara\*(National Institute for Environmental Studies (NIES)), Masahiko Isobe(The University of Tokyo)
- 13:30 国-12. 「Effect of Fragmentation on Probability of Occurrence of Freshwater Fishes in Sagami River」:「研」  
IWASAKI Akito\*(Department of Civil and Environment Engineering, Tokyo Institute of Technology), YOSHIMURA Chihiro(Department of Civil Engineering, Graduate School of Science and Engineering, Tokyo Institute of Technology), IWASAKI Yuichi(同)
- 13:45 国-13. 「Drying-up of breeding sites of largemouth bass and its predicted effect on the population dynamics by the intermittent drawing-down of the reservoir water level」:「研」  
Kazuhiro Azami\*(OYO Corporation), Norihiko Toki(Miharu Dam Management Office, Tohoku Regional Construction Bureau, Ministry of Land Infrastructure and Transport), Shigekazu Nakazawa(同), Kentaro Kamata(OYO Corporation), Tomonori Ohsugi(Water Resource Environment Technology Center), Katsuki Nakai(Lake Biwa Museum), Hiroyuki Matsuda(Yokohama National University)

【口頭発表賞・ポスター賞について】

金沢大会では、口頭発表賞及びポスター発表賞を企画しております。  
表彰式を懇親会の会場で行います。

**【自由集会・日韓セミナー】**

**「エコシステムアプローチによる河川・流域の自然復元」** 9月15日(木) - 2日目 -  
 9:30~17:30 [第3会場: 2F 423 講義室]

企画: 日韓応用生態セミナー実行委 (担当: 辻本哲郎・知花武佳)

主旨: 日韓の応用生態工学の研究者が、主として河川の自然復元を話題に2004年以来、徳島、ソウル、名古屋、光州、中標津、晋州、さいたま、ソウルと交互にセミナー開催を続けてきました。日本側では応用生態工学会のメンバーを中心に、学会とも連携をとりながら進めてきており、とくに2009年にはさいたま大会の国際セッションの一部を利用した開催を行いました。一方2010年ソウルでは、国際生態水理学シンポジウムのなかで特別セッションとして開催されています。こうした経験も踏まえ、今回は金沢大会の自由集会枠で口頭発表、ポスター発表、パネルディスカッションのセットで第9回日韓セミナーを企画し、応用生態工学会のすべての会員の皆さんにもこうした活動を知っていただき、今後の展開へ協働できたらと考えています。韓国からは10名程度の研究者の参加が見込まれています。自由集会は、6~8編の口頭発表と若干のポスター発表とともに、これまでの事例や最近の研究をベースに、河川や流域さらには国土管理への応用生態工学のアプローチの普及や進化についてパネルディスカッションを予定しています(すべて英語)。ぜひ、日韓がそれぞれの応用生態工学的アプローチをどう発展、展開させているか、興味をお持ちの方の参加を期待しています。

プログラム

- ・日韓セミナーの趣旨と意義
- ・河川・流域管理への応用生態工学的アプローチ  
 口頭発表(日韓それぞれ3~4編)  
 ポスター発表とその総括
- ・パネルディスカッション  
 Prof. Heung-sik Choi (Sangji University), Dr. Hyo-seop Woo (KICT),  
 鎌田磨人(徳島大学), 竹門康弘(京都大学), 辻本哲郎(名古屋大学)  
 応用生態工学的アプローチの進化と今後の課題  
 環境管理計画・政策化における課題  
 今後の日韓連携と発展形  
 総括

**【自由集会】**

**「水田・水路生態系における魚類研究の現状と課題」** 9月15日(木) - 2日目 -  
 14:40~17:40 [第2会場: 1F 415 講義室]

企画: 久米学(岐阜経済大)・小出水規行(農村工学研究所)・森誠一(岐阜経済大)

主旨: 河川における氾濫原域が劣化・減少している一方で、それに代りるともいえる魚類の生息場所として水田・水路生態系が注目されている。この水田・水路生態系も農業従事者の高齢化や後継者不足により、維持・管理の簡便化を目的とした圃場整備が進んでいる。その中で、水田・水路生態系の生態的機能の維持や創出のため、そこに生息する魚類をはじめとする水生生物の生息状況の把握が求められ、盛んに研究が行われている。しかしながら、現状の調査方法・解析手法は、魚類の実態に即したものののだろうか? また、これらの知見から、有効な維持・管理や復元・再生の手法を提供できるのだろうか? そこで本集会では、水田・水路生態系における魚類研究を精力的に行われている4名の方々にご講演いただき、水田・水路生態系における魚類研究の現状と課題を整理し、今後の環境改善に向けた応用的かつ効果的な研究の方向性について議論したい。

プログラム

1. 趣旨説明(10分) 久米学(岐阜経済大)
2. 水田・水路における魚類研究の現状からみえること(講演+質疑: 25分)  
 永山滋也(自然共生研究センター)

3. 生息場形成に求められる農業水路の生態機能 (講演+質疑: 25分)  
小出水規行 (農村工学研究所)
4. 魚類にとっての水田の機能 ~琵琶湖周辺域の研究から見えてきた光と陰~ (講演+質疑: 25分)  
金尾滋史 (琵琶湖博物館)
5. 農業水路における新たな地域資源管理形態の試み~保全から利用する場へ~ (講演+質疑: 25分)  
田代優秋 (徳島大)
6. コメント (10分)  
根岸淳二郎 (北海道大)
7. 総合討論 (50分)  
(司会) 森誠一 (岐阜経済大)
8. 懇親会

**【自由集会】**

**「絶滅が危惧されるヤツメウナギ類の進化, 生態そして保全を考える」 9月16日(金) - 3日目 -**  
**14:30~17:00 [第2会場: 1F 415 講義室]**

企画; 柳井清治 (石川県立大学)・山崎裕治 (富山大学)

趣旨: ヤツメウナギ類の祖先が地球上に現れたのが4~5億年ほど前だといわれ, 最古の化石が3億6千年前の地層から見つかっている. 興味深いことに, その形態はほとんど変化しておらず, まさに「生きている化石」といえ, 脊椎動物の進化の過程を探る上で重要な生き物である. 悠久の時間の中で劇的に変化したであろう環境の中をしぶとく生き抜いてきたヤツメウナギ類ではあるが, 近年の人間による自然環境の急激な改変には適応できずその存続が危ぶまれるまでに追い詰められた. この懸念すべき状況は日本各地で見られるが, それにとどまらず, アメリカ西海岸や北ヨーロッパなどでも同様であることが報告されている. こうした実状を背景に, 2011年4月にはアメリカ・オレゴン州ポートランドでヤツメウナギ保全フォーラムが開催され, 保全に関する知見や技術を各国で共有しようとする動きが高まっている.

ヤツメウナギ類の多くは, 海と川を行き来し, 産卵のために適度なサイズの礫を求め, さらに幼生が潜り込めるような柔らかい砂泥や餌となる落ち葉などの有機物を求めるなど, 非常に多様な環境を必要とする. これらのことからわかるように, 彼らの生き方には, 健全な河川にとって何が重要なのかを知る鍵が隠されている. またアメリカ先住民族や我が国の里山地帯においては貴重な蛋白源としてだけでなく, 地域の文化や精神的な象徴として重要な役割を担っている. 本集会では前半に謎の多いヤツメウナギ類の起源と進化, 生態と利用, そしてその河川環境に対する役割について報告していただく. 後半は保全や増殖に向けた技術開発の事例と国際的な連携に関する動向を報告していただき, ヤツメウナギ類を考慮した河川管理の今後の在り方について提案を行ってゆく.

プログラム

1. 開会
2. 趣旨説明 (石川県立大学 柳井清治)
3. 事例報告(発表と質疑, 15分前後)
  - ・「遺伝子解析から見たヤツメウナギ類の分類と進化」 (富山大学 山崎裕治)
  - ・「ヤツメウナギ類幼生の生態系機能」 (北大水産科学院 白川北斗)
  - ・「スナヤツメの産卵生態と産卵環境」 ((株)総合環境研究所 高山光弘)
  - ・「テレメトリーシステムによるカワヤツメの河川内行動の解明」 (北海道栽培漁業振興公社 中尾勝哉)
  - ・「里山地帯のカワヤツメ - その利用と減少要因」 (石川県立大学 柳井清治)
  - ・「カワヤツメ保全のための試験ワンドの造成」 ((株)北海道技術コンサルタント 森由行)
  - ・「カワヤツメの孵化技術と増殖への試み」 (北海道立総合研究機構 さけます・内水面水産試験場道南支場 楠田聡)
4. 総合討論
5. 閉会

**【自由集会】**

「わが国における天然記念物 4 魚種の応用生態工学的保全の現状－ECE 的アプローチの評価と今後－」 9月16日(金)－3日目－ 15:00～17:00 [第3会場: 2F 423 講義室]

企画; 佐川志朗 (土木研究所)・北村淳一 (三重県博物館)・森誠一 (岐阜経済大)

趣旨: 種指定天然記念物 4 魚種は、すべてが日本固有の淡水魚類であり学術的にも重要な我が国の遺産である。1970年代に天然記念物指定されて以来、各関係機関により生息域内・域外保全が粛々と実施されてきているが、指定から 30 年以上経過した現在においても絶滅の危機に歯止めはかからず、むしろ野生生息地は減少し続けている。彼らのように特異な環境に生息する個体群の生息場所を保全するためには、生息場所の環境特性を定量的に把握してその環境を順応的に創出する応用生態工学 (ECE) 的アプローチが重要となる。また、メタ個体群の遺伝的保全にも目を向け、局所個体群間の流動についても留意する必要がある。本集会では、4 魚種の保全に関わりが深い方々に御講演いただき、さらには、コメンテータそれぞれの御立場から忌憚のないコメントを頂戴し、4 魚種の絶滅に歯止めをかけるべく、現状の保全対策の評価と今後の方向性について議論を深めたい。

プログラム

1. 趣旨説明 (10分) 佐川志朗 (土木研究所)
2. 各種事例報告 (発表+質疑 15分×4件=60分)
  - 1) イタセンパラ 佐川志朗 (土木研究所)
  - 2) ミヤコタナゴ 綱川孝俊 (栃木県水産試験場)
  - 3) アユモドキ 阿部司 (株) ラーゴ・岡山理科大)
  - 4) ネコギギ 一柳英隆 (ダム水源地環境整備センター・九州大)
3. コメント (発表 5分×3件=15分)
 

行政	北村淳一 (三重県立博物館)
生態学	根岸淳二郎 (北海道大)
工学	田代喬 (名古屋大)
4. 総合討論 (35分) (司会) 森誠一 (岐阜経済大)

**【懇親会】** 9月16日 (金) 3日目 19:00～21:00 [会場: 金沢城・五十間長屋]

五十間長屋 (本来は武器・甲冑などの倉庫) は兼六園のお隣, 金沢城公園に在り, 史実を尊重して日本古来の伝統工法によって平成 13 年に復元されました。往時を体感されてみませんか?

また, 伝統芸能をご披露する予定です。

なお, 当会場において, 応用生態工学会の各地方研究会の活動紹介 (パネル展示) を行います。



五十間長屋

【第15回金沢大会 公開シンポジウム】9月17日(土)4日目 13:00~17:00 [会場:石川県立音楽堂邦楽ホール]

エコリージョンを考える

～生物多様性と地域の歴史と伝統に基づく流域管理～

コーディネーター 金沢学院大学大学院教授 玉井信行

【企画のねらい】

河川流域においては過去から様々な要因,例えば気候,地史的あるいは人間活動の影響を受け,独特の生物相が形づくられてきた.地形・気候・植生等が類似し,人為的な影響が同じ程度の地理的領域を区分する概念としてエコリージョンがある.

一つのエコリージョンは自然特性と人間の営為の双方が,他のエコリージョンとは異なることを意味している.これを言い換えれば,エコリージョンの中で生態系は独自の多様性を保持して来たとし,人間社会は独自の文化を育んできたことを意味する.エコリージョンは生物多様性と地域の歴史と伝統を育んできたのであり,これを流域管理の基本に据えることは,生態学の成果を国土計画に活用出来ることになる.

本シンポジウムでは,エコリージョンの世界的第一人者であるアメリカのロバート・ベイリー博士からエコリージョンの基本的な考え方と,この概念がアメリカでどのように適用されているかについて,基調講演していただく.国内からの講演者には,エコリージョン概念を生態的な指標と物理的な指標から考察する二つの潮流について,その現状や特徴などに関する講演,および,こうした考えによって川の分析を行った具体的な事例などを紹介いただく.このような先進的な成果に基づいて,エコリージョンを我が国の河川にどのように当てはめ区分を行っていくか,そしてそれに基づく生物多様性の保全を考慮した持続的な流域管理の在り方とは何かを議論する.それらを通して,本シンポジウムが地域の歴史と伝統に基づいた特色ある健全な川づくりの考え方を,広く市民の方々と共有する場となることを期待している.

【プログラム(案)】

- |             |               |   |
|-------------|---------------|---|
| 13:00~13:05 | あいさつ          | 玉井実行委員長   |
| 13:05~14:05 | 基調講演 1        | Robert Bailey 博士 (アメリカ森林局, アメリカ)<br>『エコリージョン, エコロジカルなデザインと持続性』                                |
| 14:05~14:35 | 基調講演 2        | 島谷幸宏 (九州大学大学院 工学研究院教授)<br>『エコリージョンに基づいた河川環境の評価手法』   |
| 14:35~15:35 | 事例報告 (15分×4名) |   |
|             |               | 中村太士 (北海道大学大学院 農学研究院 教授)<br>『生態系評価を地図化する試み』   |
|             |               | Chen Siew Fong (チェンシュフォン) (京都大学大学院地球環境学舎博士課程)<br>『日本における生態系管理のためのフィジオトープをもとにした<br>エコリージョンの検討』 |
|             |               | 渡辺勝敏 (京都大学大学院理学研究科准教授)<br>『淡水魚類の分布, 歴史, エコリージョン』  |
|             |               | 天野邦彦 (国土交通省国土技術政策総合研究所河川環境研究室長)<br>『河川水辺の国勢調査を利用した河川環境評価の試み』                                  |
| 15:35~15:45 | 準備休憩          |   |
| 15:45~17:00 | パネルディスカッション   |   |
|             |               | コーディネーター: 玉井信行  |
|             |               | パネリスト: Robert Bailey, 島谷幸宏, 中村太士, Chen Siew Fong  |
|             |               | コメンテーター: 渡辺勝敏, 天野邦彦   |

\*この公開シンポジウムは河川整備基金の助成を受けて実施します。